

C-13 時代衣裳の構成(第一報) — サイクルスについて —

三島学園女大家政 金網ゆき子 千葉美恵子 ○佐々木まさ子

目的 現在の多様化し、混迷した流行の中で、衣服を指導するにあたり、より深い時代衣裳把握の必要を感じ、現在の洋服裁断の源である中世の衣服より究明することにした。時代衣裳を明らかにするためには、現存する実物、または文献の史実によることが常である。しかしこの時代は、現存するものがほとんどなく、文献も少ない上に、服装史にみられるものは、衣裳形態の時代的特徴がおもで、くわしく構成を知ることには困難である。そこで今回は、史実にもとづく復元により構成を中心に、研究したことを報告する。

方法 中世における彫刻、絵画、服飾史などを資料とし、現存する僧衣を参照して実物製作を行った。サイクルスは当時の状況から宗教に多くみられるが、その構成についての材質、色、製作方法、着衣状態などくわしい文献は少ない。

この時代の材質は厚地の織物であるが適当なものがなく、その感じを出すために白地に金糸で全体に織物風のししゅうをした。チュニックは薄地うールの赤で、すそ回りに金、青、黄色などでししゅうをした。サイクルスは裏に黄色を用い、トルソーの胸の線を強調した。

結果 当時の衣服形態はわずかに教会に現存してゐる。しかし僧衣および修道服も最近大きく変り、サイクルスの形式は数少ない。

今回の復元によりその構成を把握しうるとともに、指導においては時代衣裳をより興味深く理解せうと思われる。